

令和 7 年度

第 1 回学校運営協議会

事前配布資料

- P 1 令和 7 年度 学校経営計画（案）
- P 6 令和 6 年度 学校関係者評価表
- P 12 学校近況報告 教務課（PTA 総会資料抜粋）
- P 14 学校近況報告 生徒課（PTA 総会資料抜粋）
- P 16 学校近況報告 進路課（PTA 総会資料抜粋）
- P 18 学校近況報告 保健環境課（PTA 総会資料抜粋）

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	104	学 校 名	浜松市立高等学校	校 長 名	宮崎 正
------	-----	-------	----------	-------	------

1 スクール・ミッション

政令指定都市浜松唯一の市立高校として、文武両道の教育方針のもと「学業」と「人間性」の両面においてバランスのとれた教育を実践する「規律ある進学校」を目指し、グローバルな視野をもつリーダーとして広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
①両道の教育方針のもと、知・徳・体のバランスのとれた人間を育成する。 ②基礎的学力を十分に備え、自ら考え、判断し、行動できる人間を育成する。 ③グローバルな視野をもつリーダーとして、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。	①ICT教材の活用や主体的・対話的で深い学びの授業を通して、他者と協働して学び、思考し、判断し、表現する力と確かな学力を身に付ける。 ②総合的な探究の時間「浜市総合講座」を通して、地域社会との関わりから自ら課題を設定し、その解決能力を高め、自己の未来を切り拓く力を身に付ける。 ③生徒主体の生徒会活動や学校行事を通して、他者と協議しながら、自ら参画し、判断し、実現する、主体的に取り組む力を身に付ける。	①高い学習意欲を持って己を高め、自ら課題を見つけて、仲間と共に解決しようとする生徒 ②規律ある生活態度を身に付け、文武両道を目指して鍛錬に努めるとともに、学校生活のあらゆる場面に、自ら参加しようとする意欲を持つ生徒 ③地域から世界への視点を持ち、国際社会においてリーダーとしての活躍を目指す生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 校訓「誠・愛・節」のもと、**規律、責任、品位ある生活態度**を定着させる。
- イ 知識・技能のほか、学ぶ意欲や自らで課題を見つけ課題を解決できる**確かな学力及び情報活用能力**を育成する。
- ウ 家庭や地域社会等と**連携**して「社会に開かれた教育課程」を実現し、社会に貢献できる**リーダーとしての資質・能力**を育成する。
- エ **キャリア教育**を推進し、高い志のもと**進路を確実に実現する力**を育成する。
- オ **安心・安全な教育環境を整備**する。
- カ **ICT化及び業務改善**を推進し、**研修の充実**により教職員の資質能力・学校組織力の向上を図る。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	規律、責任、品位ある生活態度の定着	・「校門一礼」や挨拶の励行 ・正しい服装・言葉遣い指導 ・日常の交通安全指導、携帯安全教室・サイクルマナー教室の実施による事故やトラブルの未然防止	・「挨拶や言葉遣いはしっかりとできている」「生徒の頭髪や服装はきちんとしている」等と答える生徒の肯定的自己評価を100%に近づける。 ・交通事故発生前年比10%減	生徒課 全職員
		・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用する。 ・主体的な家庭学習の定着を図る。	・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用していると答える生徒90%以上	各学年 進路課
		・生徒が主体的に清掃に取り組むための支援・働きかけをする。	・「清掃などを通して校内をきれいに保とうと心掛けている」と答える生徒80%以上	保健環境課 事務部
		・各学年において初期・中期指導を実施し、勉強と部活動時間のバランス・心身の健康管理のとれた規則正しい生活習慣を定着させる。	・学年集会を毎学期実施。 ・運動部指導会、文化部指導会を年間2回以上 ・「原則部活動時間19時まで」を徹底する。 ・定期試験一週間前までの特別許可以外の部活動禁止を徹底する。	各学年 生徒課 進路課 管理職
イ	「主体的・対話的で深い学び」の実現と学力の向上	・きめ細やかな学習指導の実践 ・課題解決する力を育成する。	・「授業では学力を伸ばしてくれる」と答える生徒90%以上	教務課 進路課 各教科
		・個に応じた指導を推進し、学力伸長を図る。 ・新しい大学入試に対応した指導の実施（授業・検定・進路課外等）	・「進路指導が適切に行われている」と答える生徒90%以上 ・平日補習、土曜補習、夏休み補習の講座を充実させる。	
		・グローバル人材の育成 ・国際理解教育の推進	・英語によるパフォーマンステストを充実させ、コミュニケーション能力の向上を図る。年間8回程度実施し、「主体的に取り組んでいる、運用能力の向上を実感している」と答える生徒70%以上	英語科 研修課

様式第1号

イ		・読書活動を推進し、思考力・判断力・表現力を身につける。 ・将来に必要な知識・教養を獲得する。	・図書便りの発行の充実 ・「朝読書」の主体的な実施 ・「図書室の蔵書は充実している」と答える生徒 85%以上	各学年 図書課
	教員の授業力向上	・授業改善を推進する。 ・観点別評価の改善を進める。 ・ICT 機器を使用した授業の研究を推進する。 ・主体的・対話的で深い学びの授業・ICT 機器活用授業の研究を進める。	・授業公開一人年間1回以上、授業参観3回以上。 ・観点別評価に係る改善の推進。 ・生徒による授業評価2回実施。 ・市教委・県教委の事業を利用した研修・授業検討会の実施 ・外部の研修講座等への参加の呼びかけ	研修課 教務課 進路課 情報化推進課 全職員
ウ	大学や企業・地域・家庭等との連携や協働、貢献活動をととしてリーダーとしての資質能力の育成及び広報活動	・進学校としての部活動の充実 ・社会貢献活動を推進し、人権意識を高め、思いやりある豊かな心を育む。 ・生徒が他者・外部と関わり合うことを大切にする。	・「部活動は充実している」と答える生徒 90%以上 ・県大会以上出場 20 部活以上 ・年間で1回以上社会貢献活動（地域貢献活動・協働・連携等 自治会や同窓会との連携含む）を行う団体（部活動・委員会等）20 以上	生徒課 各部活顧問 各委員会 全職員
		・生徒会活動、学級活動、行事、部活動を通じ、社会で必要とされる資質能力を育成する。	・「学校行事が充実している」と答える生徒 90%以上。	生徒課 各委員会担当
		・広報活動及び学校の見える化を進める。 ・広報誌「いちりつプレス」やHP ブログ等を活用し積極的かつタイムリーに情報発信を行う。	・新聞記事掲載 20 回以上 ・「いちりつプレス」年2回発行 ・ブログの投稿が各部活動2回以上。ブログアクセス数毎月 250 回以上	情報化推進課 教頭 全教職員
エ	体系的なキャリア教育の充実と高い志を持った進路実現	・体系的な進路行事の充実 ・総合的な探究の時間の充実 ・SDGsやESD(持続可能な開発のための教育)の意識や推進 ・郷土愛、職業観の醸成 ・主権者教育の推進	・内容の体系化・カリキュラムマネジメントの推進 ・大学模擬授業1回、職業研究会、政策提言(ブレ政策提言を含む。)の実施	各学年 進路課 総探委員会

様式第1号

		・模擬試験の意義を理解し、受験する。 ・個別試験対策(論述等の指導)の充実により、難関大学挑戦の生徒を支援。	・模擬試験受験後に復習していると答える生徒90%以上。 ・入学時の志望進路の実現率60%以上。	各学年 進路課 全職員
オ	生徒の心身の健康・安全の確保及び教育環境の整備	・学校事故の防止、特に熱中症に対する教職員及び生徒の注意意識を高める。	・熱中症講座、救命救急講習の実施 ・5～10月熱中症計で計測し、指標に留意した活動を行う。	全職員 保健環境課
		・防災教育・安全教育の充実	・防災マニュアルや危機管理マニュアルを再点検し、改訂する。 ・学校安全計画の策定及び安全教育の実施 ・防災訓練・防災教育年3回以上。 ・防災備品の確認、再点検	総務課 全職員
		・個別相談などを通して生徒の心身の状態を把握する。 ・生徒の情報を共有し、SCとも連携して相談体制を充実させる。	・1分間カウンセリングを1年生9～10月に実施 ・個別面談年間2回以上。 ・正副担任・学年主任等との情報共有 ・「教師は悩みや相談に親身になってくれる」と答える生徒90%以上 ・生徒の相談対応の満足度を前年より上げる。	担任 各学年 保健環境課
		・校内施設・設備の点検 ・学習環境及び設備等の充実 ・学校内外の美化・清掃	・安全点検学期に1回以上、不備な個所の改善。 ・設備の更新を進める。 ・行事の前後で環境整備委員会を中心とした美化活動の実施 ・清掃用具点検年間3回以上	保健環境課 総務課 教務課 事務部
カ	学校の組織力の向上及びICT化や業務改善の推進	・年間計画における行事等の配置や内容を見直す。	・各学年・分掌、課長主任会等で意見の集約を図る。 ・教職員の本来業務(生徒に向き合う・指導の準備等)の時間確保のため、学校業務の整理・縮減を進め、出勤時間の適正化をする。	教務課 生徒課 全職員 管理職
		・計画的に部活動を実施する。	・部活動計画表の作成 ・各部活動月平均8日以上休養日の設定(年間を通じて) ・活動実績の作成	生徒課 各部活顧問

	・情報の一元化の推進 ・教育課題等を共有し、組織的に解決していく。	・共有フォルダを整理する。 ・共有ツールを活用し、課長主任会・課会・学年会・各種委員会等を活性化し、着実に問題解決をしていく。	情報化推進課 全職員 管理職
	・学校運営協議会委員、保護者アンケート等の評価及び意見等を、学校づくりに活かす。	・「学校生活に満足している」と答える生徒 90%以上。	総務課 研修課 全職員
	・生徒一人一台端末活用に向けて、校内ルールの見直しや研修を進める。	・授業、学級活動、学校生活において活用ルールを検討する。	情報化推進課 全職員 管理職
	・効率的な業務運用 ・ペーパーレス化の推進 ・会計等運用方法の見直し	・計画的な業務計画の推進 ・会議資料は原則ペーパーレス化していく。 ・成績管理システムの確実な運用を図る。 ・学校予算運用の効率化	全職員 管理職

令和6年度 学校関係者評価表

学校番号	104	学校名	浜松市立高等学校
------	-----	-----	----------

スクール・ミッション	政令指定都市浜松唯一の市立高校として、文武両道の教育方針のもと「学業」と「人間性」の両面においてバランスのとれた教育を実践する「規律ある進学校」を目指し、グローバルな視野をもつリーダーとして広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。
スクール・ポリシー	〈グラデュエーション・ポリシー〉 ①文武両道の教育方針のもと、知・徳・体のバランスのとれた人間を育成する。 ②基礎的学力を十分に備え、自ら考え、判断し、行動できる人間を育成する。 ③グローバルな視野をもつリーダーとして、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。
	〈カリキュラム・ポリシー〉 ①ICT教材の活用やAL型授業を通して、他者と協働して学び、思考し、判断し、表現する力と確かな学力を身に付ける。 ②総合的な探究の時間「浜市総合講座」を通して、地域社会との関わりから自ら課題を設定し、その解決能力を高め、自己の未来を切り拓く力を身に付ける。 ③生徒主体の生徒会活動や学校行事を通して、他者と協議しながら、自ら参画し、判断し、実現する、主体的に取り組む力を身に付ける。
	〈アドミッション・ポリシー〉 ①高い学習意欲を持って己を高め、自ら課題を見つけて、仲間と共に解決しようとする生徒 ②規律ある生活態度を身に付け、文武両道を目指して鍛錬に努めるとともに、学校生活のあらゆる場面に、自ら参加しようとする意欲を持つ生徒 ③地域から世界への視点を持ち、国際社会においてリーダーとしての活躍を目指す生徒

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

今年度の取組(目標具現化の柱 スクールポリシー)		総合評価	
ア 校訓「誠・愛・節」のもと、規律、責任、品位ある生活態度を定着させる。 イ 知識・技能のほか、学ぶ意欲や自らで課題を見つけ課題を解決できる確かな学力及び情報活用能力を育成する。 ウ 家庭や地域社会等と連携して「社会に開かれた教育課程」を実現し社会に貢献できるリーダーとしての資質・能力を育成する。 エ キャリア教育を推進し、高い志のもと進路を確実に実現する力を育成する。 オ 安心・安全な教育環境を整備する。 カ ICT化及び業務改善を推進し、研修の充実により教職員の資質能力・学校組織力の向上を図る。		B	「学校生活に満足している」について生徒・保護者ともに9割以上が「当てはまる」「やや当てはまる」との回答があった。その他の項目についても概ね8割以上の満足度を得ている。しかし、各取組において、「一部できていない」や「生徒のニーズに応じて」や活用にさらなる工夫が求められることなど、目標具現化に向けて来年度に参考となる成果と課題が挙げられた。

NO	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
ア	・「校門一礼」や挨拶の励行 ・正しい服装・言葉遣い指導 ・日常の交通安全指導、携帯安全教室・サイクルマナー教室の実施による事故やトラブルの未然防止	・「挨拶や言葉遣いはしっかりできている」「交通ルールやSNSのマナーを守る」等と答える生徒の肯定的自己評価を100%に近づける。 ・交通事故発生前年比10%減	A	教職員の指導により「挨拶や言葉遣いはしっかりできている」と答える生徒は95%を超え、多くの生徒は前向きに落ち着いた生活を送れているが、一部規律ある日常生活が確立できていない生徒がいる。
	・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用する。 ・主体的な家庭学習の定着を図る。	・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用していると答える生徒90%以上 ・月に2回以上家庭学習時間調査を実施し、生徒個々に適切な助言を行う。	A	模試の振り返りや長期休暇、受験期の学習計画を立てる際に、ほぼ全ての生徒が進路ダイアリー・進路資料を活用した。一方で、日常的に使用する生徒の割合を増やしていく必要がある。 1～2年生では毎月2回の家庭学習時間調査を実施して、適切に助言を行うことができた。 一方で「進路ダイアリー」「進路資料」の使用方法や頻度は担当に任されている部分が多く、職員間でどう活用するか共有し指導に生かす必要がある。生徒に良い活用例を提示するなどし、生徒の指導にどう生かしていくのか、生徒目線からも再考し変えるべきところは改良していく。
	・清掃指導を徹底する。	・「清掃をしっかりと行っている」と答える生徒90%以上	A	生徒によって取り組み方に大きな差がある。 毎日の清掃指導を各担当で行い、校内を清潔に保つことができた。 アンケートでは肯定的回答が約94%あった。おおむね真面目に掃除をしているが、生徒によって取り組み方に大きな差を感じる(両極化)。 トイレの使い方のマナーやごみの分別、清掃分担の適正配置など普段からの声掛けや職員の適正配置についても今後考えていきたい。
	・各学年において初期・中期指導を実施し、勉強と部活動時間のバランス・心身の健康管理のとれた規則正しい生活習慣を定着させる。	・学年集会学期に2回以上。 ・「原則部活動時間19時まで」を徹底する。 ・定期試験一週間前までの特別許可以外の部活動禁止を徹底する。	A	各学期2回程度、適切なタイミングで学年集会を行い、規律ある学校生活を送らせることができた。 部活動の活動時間に関しては目標を達成でき、日頃の生活習慣や学習時間の確立を促す指導ができた。 3学年では、最上級学年として下級生の模範となる姿を涵養することができた。 定期テスト1週間前図書館開放を18:50まで延長している。多くはないが、各学年とも利用している生徒がいるので、使用教室を整理し、次年度も継続する予定である。

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
イ	・きめ細やかな学習指導の実践 ・課題解決する力を育成する。	・「授業では学力を伸ばしてくれる」と答える生徒90%以上	A	生徒一人一台端末(クロームブック)の導入が全学年まで進んだ。今後は、生徒の思考力・判断力・表現力、主体性を育む学習内容の共有やICT機器を活用した生徒の活動を促す学習の実践事例や専門的知識に関する職員研修を全体研修や教科内研修等を通してさらに増やしていきたい。
	・個に応じた指導を推進し、学力伸長を図る。 ・新しい大学入試に対応した指導の実施(授業・検定・進路課外等)	・「進路指導が適切に行われている」と答える生徒90%以上 ・平日補習、土曜補習、夏休み補習の講座を充実させる。	B	3学年ともに、学年進路行事は実施できた。内容について、志望校の決め方や入試制度についてなど生徒の要望に応えるものを入れるなど検討が必要である。 補習については、1学期補習、夏休み補習までは受講人数が比較的良好であったが、2学期以降の受講人数がここ数年、減少してきている。特に土曜補習は、生徒の希望が減少した。生徒のニーズに応えた補習のあり方(募集方法等)を検討し、また、補習の質を高めていく。
	・グローバル人材の育成 ・国際理解教育の推進	・エンパワーメントプログラムの充実・満足度90%以上(・留学の支援)	C	グローバルスタディズ(旧エンパワーメントプログラム)最少催行人数30名のため、1月末まで申込を延長した。費用が4万円以上かかり、生徒自身予定が立たない中で3日間の日程は躊躇する要因と思われる。 留学に必要な書類を事務室や担任、英語科と協力して滞りなく準備することができた。今年度、留学生の受け入れはなかった。
	・読書活動を推進し、思考力・判断力・表現力を身につける。 ・将来に必要な知識・教養を獲得する。	・ビブリオバトルの実施 ・「朝読書」の主体的な実施 ・「図書室の蔵書は充実している」と答える生徒85%以上	A	ビブリオバトルに政策提言の視点を取り入れて、表現力を高めることができた。 例年のビブリオバトルに探究的な内容を加えて実施した。朝読書では概ね主体的に取り組んでいた。年間を通して落ち着いた取組であるが、意義を再度伝えなくてはいけない生徒がごく少数いる。 貸出数は昨年度よりも増えた。図書委員の広報や図書課職員が本を推薦する活動の成果だと考えられる。
	・授業改善を推進する。 ・観点別評価への対応を進める。 ・ICT機器を使用した授業の研究を推進する。 ・アクティブラーニング型の授業・ICT機器活用授業の研究を進める。	・授業公開一人年間1回以上、授業参観3回以上。 ・観点別評価に係る検討・改善の推進。 ・生徒による授業評価2回実施。 ・市教委・県教委の事業を利用した研修・授業検討会の実施 ・外部の研修講座等への参加の呼びかけ	A	授業担当教員の全員が授業公開を行った。3回以上の参観については、授業担当教員の90%が実施した。 授業評価は全教科が2回実施し、各学期の比較検討を行った。 他校の授業公開、講座等への参加の呼びかけも実施した。都市立高校合同研修会への参加者があった。 アクティブラーニングの意義の伝達とさらなる推進を図る。教育課程検討委員会では、全教科主任が集まり、各教科における観点別評価における評価方法や評価規準の在り方について意見交換をし、授業改善や課題を中心に、校内全体で情報を共有し、専門的な知識を深めることができた。

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
ウ	・進学校としての部活動の充実 ・社会貢献活動を推進し、人権意識を高め、思いやりある豊かな心を育む。 ・生徒が他者・外部と関わり合うことを大切にする。	・「部活動は充実している」と答える生徒90%以上 ・県大会以上出場20部活以上 ・年間で1回以上社会貢献活動(地域貢献活動・協働・連携等 自治会や同窓会との連携含む)を行う団体(部活動・委員会等)20以上	A	部活動の充実度はどの学年も90%を超え、全国大会出場は昨年度より減少したが、大多数の部活動が県大会へ出場することができた。生徒会を中心とした社会貢献活動も年々参加者を増やし、多くの団体が参加し行うことができた。
	・生徒会活動、学級活動、行事、部活動を通じ、社会で必要とされる資質能力を育成する。	・「学校行事が充実している」と答える生徒90%以上	B	1年生は90%を超えたが、2、3年生では85%弱と学校行事の充実度が下がってしまった。学習中心の学校生活は大切ではあるが、生徒のために高校生活の思い出となる心に残る行事も考えていきたい。
	・新聞記事掲載への働きかけ ・広報誌「いちりつプレス」やHP ・ブログ等を活用し積極的かつタイムリーに情報発信を行う。	・新聞記事掲載20回以上 ・掲載記事校内掲示2か所以上 ・ブログアクセス数月250回以上	A	ブログ、ホームページ、いちりつプレスにはタイムリーにきめ細やかな情報発信ができ、学校の様子を詳細に広報することができた。
エ	・体系的な進路行事の充実 ・総合的な探究の時間の充実 ・SDGsやESDの意識や推進 ・郷土愛、職業観の醸成 ・主権者教育の推進	・内容の体系化・カリキュラムマネジメントの推進 ・大学模擬授業1回、大学見学2回、職業研究会、「浜市ふるさと講座」・政策提言の実施	A	新課程で情報が乱立する中、生徒たちが自らの進路実現に向け、主体的に探究活動をすることができた。 総合的な探究の時間の内容を精査し、必要なタイミングで実施することができた。体系性についても、2年次との学習とのつながりを考慮し、ビブリオバトルのテーマを浜松市の課題へ変更できた。 市が生徒の提言を実際に検討する仕組みがあるとさらに探究意欲が高くなる。 名古屋大学見学会は大学の受け入れ態勢が変わり、今後日程面で検討が必要である。 大学模擬授業、大学見学会、進路講演会を実施し、講師の方と綿密な打ち合わせをすることでタイムリーで生徒のニーズに合わせたものに近づけることができた。
	・模擬試験を大事に受験する。 ・個別試験対策(論述等の指導)の充実により、難関大学挑戦の生徒を支援。	・模擬試験受験後に復習していると答える生徒90%以上。自宅受験を極力減らす。 ・入学時の志望進路の実現率60%以上。	B	進路だよりなどを通して、模擬試験の重要性、模擬試験の復習の重要性を伝えた。模擬試験に真剣に取り組む雰囲気が出ていて一方で、試験後の復習に取り組む生徒の割合が90%を下回る結果となった学年もあった。試験前後に進路だよりで各教科から模試の問題のポイントや今後の学習アドバイスを発信することができた。 共通テスト模試では、スタディサプリを用いて自己採点を提出させ、指導に活用することで効果的な指導につなげることができた。 3年生の個別指導においては、12月末までにのべ59名の個別指導を実施した。昨年度に比べて希望する人数が減少した。

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
オ	・学校事故の防止、特に熱中症に対する教職員及び生徒の注意意識を高める。	・熱中症講座の実施年1回 ・5～10月熱中症計で計測し、毎週提出(夏季休業除く)する。	A	熱中症講座は1年生を対象に実施。新任教職員の参加も呼びかけている。生徒及び教職員ともに熱中症計での計測ができる。今後も取組を継続していく。 室温調節や集会等の場所の設定などに留意し、生徒にも注意喚起する等普段の生活から熱中症に留意した指導を行った。
	・防災教育・安全教育の充実 ・開かれた学校づくりの推進	・防災マニュアルや危機管理マニュアルを再点検し、改訂する。 ・学校安全計画の策定及び安全教育の実施 ・防災訓練・防災教育年3回以上。	A	市の防災マニュアルの内容に合わせ、今年度の校内防災マニュアルを作成し周知した。防災訓練は、避難訓練だけでなく防災倉庫の点検、防災用品の確認や生徒による被災についてのプレゼンテーションを行い、防災意識の高揚を図った。
	・1分間カウンセリングの実施 ・個人面談の充実 ・SCとの連携による相談体制の充実	・1年生9月に実施 ・個別面談年間2回以上。 ・正副担任・学年主任等との情報共有 ・「教師は悩みや相談に親身になってくれる」と答える生徒90%以上(生徒・保護者に対する相談対応の満足度)	B	1分間カウンセリングは10月に実施できたが、限られた時間のため十分に声を拾えているか不安がある。生徒の悩みや問題について教師間での共有に努めた。 アンケートでは肯定的回答が生徒90%弱、保護者75%程度(前年度より若干低下)であった。 不定期にも個人面談を実施し、進路や生活上での悩み等に応じた。特に、科目選択に合わせた面談では、時間をかけて生徒と向き合うことができた。 ・スクール・カウンセラー(SC)利用が昨年度よりもだいぶ増加した。本人からの利用希望が多い一方、こちらが声を掛けても大丈夫と拒否する生徒もいるため、支援が難しい場合もある。
	・学校内外の美化・清掃や校内施設・設備の点検 ・学習環境及び設備等の充実	・安全点検学期に1回以上、不備な箇所の改善 ・清掃用具点検年間3回以上 ・環境整備委員会の活動年間6回以上	A	清掃用具年3回点検は実施できた。要望を受け清掃用具購入、補充もできた。 中学生一日体験入学前日清掃をはじめ、各行事において環境整備委員はよく活動できている。 環境整備委員は、文化祭や体育大会後などに美化活動も行った。 教室環境の整備について、引き続き生徒用の机と椅子の更新を進めたが、年間数クラス程度にとどまり、大変時間を要している。サイズが小さく老朽化した生徒用ロッカーの更新が実現した。

カ	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
	・年間計画における行事等の配置や内容を見直す。	・各学年・分掌、課長主任会等で意見の集約を図る。 ・教職員の本来業務(生徒に向き合う・指導の準備等)の時間確保のため、学校業務の整理・縮減を進め、出退勤時間の適正化に努める。	B	年間行事と授業時間確保の調整は概ね定めることができた。今後は教育課程における教育目標の達成のため、生徒の主体的な学習活動時間の確保と職員の働き方改革の両方を鑑みて、取り巻く環境の変化に応じて適切な見直しを進めていく必要がある。 GIGA委員会関連の行事を次年度年間行事に入れることができた。 毎週、生徒課会議を開催し、問題点の共有や生徒に関する情報交換をすることができた。特に今年度はいじめ対策委員会を立ち上げ、多くの先生方に関わってもらいながら学年や部活動の垣根を越えて、取組や対応の協議を行った。
	・計画的に部活動を実施する。	・部活動計画表の作成(年間又は各月) ・各部活動月平均8日以上休養日の設定(年間を通じて)	A	毎月の部活動計画表を作成、計画的に実施できた。休養日も大会日程に合わせ、年間を通してガイドラインを守ることができた。公式戦を控えている場合のテスト週間の短時間の活動にストレスを抱える生徒や保護者もあり、今後の課題である。
	・情報の一元化の推進 ・教育課題等を共有し、組織的に解決していく。	・共有フォルダを整理する。 ・課長主任会・課会・学年会・各種委員会等を活性化し着実に問題解決をしていく。	A	デバイス制御で、適合USBの利用に移行できた。引き続き学校の取組を検討、周知を継続していく。
	・学校運営協議会委員、保護者アンケート等の評価及び意見等を、学校づくりに活かす。	・「学校生活に満足している」と答える生徒90%以上。	A	「当てはまる」「大体当てはまる」と答えた生徒の割合は92.8%であった。
	・生徒一人一台端末導入に向けて、整備や研修を進める。	・仕様や活用ルール等具体想定して内容を詰めていく。 ・導入研修の実施	A	学年進行と共に生徒一人一台端末の利用が進んでいるように感じる。引き続き、授業以外の学年活動や学校活動、生徒会活動での活用を考える。
	・効率的な業務運用 ・会計等運用方法の見直し	・計画的な業務計画の推進 ・成績管理システム運用を進める。 ・学校予算運用の効率化	B	順調に成績管理システムを活用できている。 設備の修繕など学校予算を適切に執行した。

教 務 課

1 スクール・ミッション

政令指定都市浜松唯一の市立高校として、文武両道の教育方針のもと「学業」と「人間性」の両面においてバランスのとれた教育を実践する「規律ある進学校」を目指し、グローバルな視野をもつリーダーとして広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。

2 スクール・ポリシー（グラデュエーションポリシー）

- ①文武両道の教育方針のもと、知・徳・体のバランスの取れた人間を育成する。
- ②基礎的学力を十分に備え、自ら考え、判断し、行動できる人間を育成する。
- ③グローバルな視野を持つリーダーとして、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。

3 道徳教育目標

- 校訓「誠・愛・節」のもと、規律、責任、品位ある生活態度を定着させる。
- ・校訓「誠・愛・節」の精神を理解した凛とした市立生を育成する。
 - ・日常生活を通じて自主自立の精神を養う。
 - ・規律ある進学校として礼節をわきまえ、品位のある服装や態度を心がける市立生を育成する。

4 総合的な探究の時間目標

探究の見方・考え方を働かせ、総合的な学習活動を通して自己の在り方・生き方について深く考える。その過程において課題の発見や問題の解決ができるようになるための資質・能力を次のとおり育成する。

5 特別活動目標

ホームルーム	ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を確立し、高い目標に向かって切磋琢磨できる集団の一員として責任を持って行動する態度を養い、健全な生活態度を育てる。
生徒会活動	自発的・自治的な活動を通して自主性や社会性を身に付け、校内の諸問題を生徒会・専門委員会が中心となって生徒の力で協力して解決していく実践的な姿勢を育成する。
学校行事	文化祭・体育大会応援合戦等の行事を通じて「チーム市立」の連帯感を深めるとともに、公共の精神を養い、よりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育む。

6 学年目標

1 学年	自ら考えて、行動できる (1) 時を守り、場に応じた行動や礼節をわきまえた態度を身につける。 (2) 学校行事や部活動などの経験を通して、人との関わり方を身につける。 (3) 高き志に向かう主体的な学習態度を身につける。 (4) 広く社会について考え、問題意識を持てるようになる。
2 学年	自己実現への次のステップへ～自分の可能性を見出そう (1) 中堅学年としての自覚を持ち、規律ある生活態度で範を示す。 (2) 行事等諸活動に積極的に関わり、中心かつ橋渡しの役割を担う。 (3) 進路目標を言葉にし、積極的な学習態度を身につける。
3 学年	自己実現への飛躍 (1) 節度ある生活をおくり、責任ある行動をとる。 (2) リーダーとしての自覚を持ち、諸活動に積極的に取り組む。 (3) 進路実現に向け、計画的に学習に取り組む。

7 教務課目標

- ・ 現行教育課程上の問題点の洗い出し
- ・ 観点別評価に関する情報共有の推進
- ・ 教務課各業務の改善

8 学習指導

(1) 授業の充実

- ・ チャイムと同時に授業開始を徹底し、授業に積極的に参加する態度を養う。
- ・ 1年～基礎学力の向上を図る。
- ・ 2年～基礎学力を定着させるとともに、応用力をつける。
- ・ 3年～進路実現に向けた実践的な力をつける。
- ・ シラバス（年間学習指導計画）の改訂、授業評価の検討を通して授業の改善を図る。

(2) 家庭学習時間の確保と学習内容の充実

- ・ 家庭学習時間を確保し、学習習慣を確立させる。
- ・ 限られた時間の中で効率よく学習できるように工夫させる。

9 2年次履修モデル

(1) 国公立文系

国語・英語・数学・理科(生物基礎・化学基礎)・地歴(日本史探究又は世界史探究)

(2) 理系

国語・英語・数学・理科(化学、生物又は物理)・地歴(地理探究)

(3) 私立文系

国語・英語・理科(生物基礎・化学基礎)・地歴(日本史探究又は世界史探究)

3年次進路に応じて芸術・家庭・体育・情報

※ 教科選択仮登録 1・2年生 6月 → 秋(10月～11月頃)に最終の本登録

夏休みの三者面談等で相談可能

※ 自己の適性等に応じた進路実現のために科目選択が重要

10 主な学校行事とテスト日程

	主 な 学 校 行 事	テ ス ト 日 程
1 学期	始業式 4 / 7 (月) 入学式 4 / 8 (火) 萌葱祭(校内発表) 6 / 6 (金) 萌葱祭(一般公開) 6 / 7 (土) 終業式 7 / 18 (金) 夏季休業 7 / 19 (土)～8 / 31 (日)	① 2・3年・(1年)課題テスト 4 / 9 (水)～10 (木) ② 中間テスト 5 / 19 (月)～21 (水) ③ 期末テスト 6 / 24 (火)～27 (金)
2 学期	始業式 9 / 1 (月) 体育大会 9 / 17 (水) 校外研修 10 / 8 (水) 修学旅行(2年) 12 / 2 (火)～5 (金) 終業式 12 / 19 (金) 冬季休業 12 / 20 (土)～1 / 5 (月)	① 1・2年課題テスト 9 / 1 (月)・2 (火) ② 中間テスト 10 / 1 (水)～3 (金) ③ 期末テスト 11 / 17 (火)～20 (金)
3 学期	始業式 1 / 6 (火) 郊外走 2 / 2 (月) 卒業式 3 / 2 (月) 球技大会 3 / 11 (水) 修了式 3 / 19 (木) 春季休業 3 / 20 (金)～	① 1・2年課題テスト 1 / 6 (火) 1 / 7 (水) ② 1・2年学年末テスト 2 / 16 (月)～19 (木)

生徒課

1 指導重点目標

- (1) 規律、責任、品位ある生活態度の育成
- (2) 学校生活への積極的取り組み
- (3) 安全教育の推進

2 具体的各係別実践目標

(1) 指導係

- 基本的な生活習慣の確立
- 美しい言葉遣いとあいさつ
- 美しい姿勢と着こなし
- 規則の遵守
- 交通安全指導の徹底

(2) 生徒会係

- 生徒会の活性化と各委員会の積極的活動
- 自治意識の高揚
- 生徒会行事の質の向上と充実、部活動の活性化
- 生徒相互の協力と創意工夫による LHR 活動の推進
- HR 活動を通して、HR の和と団結力の育成
- 全校生徒の社会福祉に対する意識の活性化と実践意識の高揚

3 生徒課具体的実践指導方針

- 生徒指導はホームルーム担任が行い、生徒課がそれを援助する。
- 生徒との接触を密にし、教師、生徒の信頼関係を深める。
- 生徒に対して、教師全員が同一步調で指導する。
- 非行が少ないことに安心せず、潜在する問題を事前に見いだし指導する。
- 市立生としての自覚を持たせ、伝統を守り前向きな姿勢で努力する指導を継承する。

4 具体的実践指導（五つの提言）

- (1) 頭髮は学生らしく質素で衛生的に保ち、加工したり染色したりしない。
- (2) 制服は生徒心得に基づき、市立高校生らしく着こなす。
- (3) 交通マナーを守り、事故防止に努める。
- (4) 時間を守り、けじめある生活を送るために、スマートフォンの節度ある利用を心がける。
- (5) 机・ロッカーの中の整理整頓・貴重品の管理をしっかりとし、盗難防止に努める。

令和6年度 部活動等大会日程及び試合結果

月	部	全国		大会等	結果
		☆	人数		
1	6 陸上競技部	☆	2	第40回U20日本陸上競技選手権	110mH 出場
2	7 なぎなた部	☆	10	令和6年度全国高等学校総合体育大会	【団体試合】出場 【個人試合】出場 【演技】2チーム出場
3	7 放送部	☆	15	第71回NHK杯全国高校放送コンテスト	アナウンス部門 準々決勝進出 朗読部門 準々決勝進出 ラジオドキュメント部門 準々決勝進出 テレビドキュメント部門 優良 創作ラジオドラマ部門 入選 創作テレビドラマ部門 制作奨励
4	7 マンドリン部	☆	83	令和6年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール	吹田市長賞(5位)
5	8 女子テニス部	☆	2	令和6年全国高等学校総合体育大会	ダブルス 出場
6	8 書道部	☆	1	全国高等学校総合文化祭岐阜大会2024	出場
7	8 放送部	☆	3	全国高等学校総合文化祭岐阜大会2024	アナウンス部門 出場 朗読部門 出場
8	8 陸上競技部	☆	14	令和6年全国高等学校総合体育大会	女子1500m 出場 女子3000m 出場 女子100mH 出場 女子三段跳 出場 女子4×100mR 準決勝進出 女子4×400mR 出場 男子走高跳 出場
9	9 女子テニス部	☆	3	全日本ジュニア選手権	U18ダブルス 出場 U16ダブルス 出場
10	9 女子テニス部	☆	1	第78回国民スポーツ大会	少年女子 3回戦進出
11	9 新体操部	☆	5	International AGG Clubs Championships2024	ショートプログラムの部優勝
12	9 なぎなた部	☆	1	第78回国民スポーツ大会	少年女子 出場
13	9 陸上競技部	☆	1	第78回国民スポーツ大会	少年女子A 100mH 8位
14	10 男子テニス部	☆	1	2024U15全国選抜ジュニアテニス選手権大会	3回戦進出
15	11 吹奏楽部	☆	35	第30回日本管楽合奏コンテスト全国大会	優秀賞
16	11 吹奏楽部	☆	46	第26回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜	審査員長賞
17	12 陸上競技部	☆	8	第36回女子全国高等学校駅伝競走大会	29位
18	1 陸上競技部	☆	1	皇后盃 第43回全国女子駅伝	静岡13位 第7区
19	2 陸上競技部	☆	1	2025日本室内陸上競技大阪大会	U20女子60mH B決勝進出
20	3 女子テニス部	☆	9	第47回全国選抜高校テニス大会	団体戦出場
21	3 なぎなた部	☆	8	第20回全国高等学校なぎなた選抜大会	団体の部 2回戦進出 個人の部 ベスト16

年度ごとの推移

年度	出場団体	出場生徒数
令和元年度	13	359
令和2年度	13	152
令和3年度	13	198
令和4年度	10	267
令和5年度	10	332
令和6年度	9	250

進路課

1 指導目標

生徒の自己実現を達成するため、進路意識の高揚に努め、きめ細かな進路指導を行う。

進路希望100%実現を目指す。

2 具体的実践活動重点目標

(1) 一貫した指導体制を確立し、3年間の進路指導を計画的に実施する。

(2) 教科指導力、進路指導力向上のための機会・ツールを提供する。

(3) 模擬試験の受験を重視し、結果分析により弱点補強に努める。

(4) 補習を計画的に実施し、生徒の学力向上を目指す。

(5) 高大連携、模擬授業等を通して進路意識の高揚に努める。

(6) 小論文、国公立大学2次指導における個別指導のためのシステム作り。

3 年間進路計画(抜粋) ○は模擬試験

	1・2年生	3年生
4月	進路志望調査 土曜補習開始	進路志望調査 土曜補習開始
5月	○スタディサプリ到達度テスト(1年生)	○全統共通テスト模試 ○全統記述模試 ○進研共通テスト模試
6月	名古屋大学見学会(延期または中止)	第1回進路検討会
7月	○進研模試 夏季進学補習	○進研記述模試 夏季進学補習 ○全統共通テスト模試
8月	○スタディサプリ到達度テスト	夏季進学補習 ○全統記述模試
9月	進路志望調査	進路志望調査 ○進研共通テスト模試
10月	進路講演会(1年生) 大学模擬授業(2年生)	共通テスト出願 ○進研記述模試 ○全統記述模試 ○全統共通テスト模試
11月	○進研模試	○全統プレ共通テスト
12月	冬季補習	第2回進路検討会 冬季補習 共通テスト直前演習
1月	○進研模試	共通テスト 第3回進路検討会
2月	○全統共通テスト模試(2年生) 進路講演会(2年生と2年生保護者)	個別学力試験対策
3月	受験体験を語る会(2年生) ○スタディサプリ到達度テスト	個別学力試験対策

過去5年間の合格者数・入学者数(現役生)

	国公立大学 合格者数	国公立大学 入学者数	私立大学 入学者数	難関国立大学 合格者数	準難関国公立大 学合格者	難関私立大学 合格者数	専門学校	就職
令和2年度	184	169	200	8	18	181	20	5
令和3年度	181	169	208	17	23	290	7	0
令和4年度	200	194	179	19	22	257	4	1
令和5年度	179	172	162	18	28	249	7	1
令和6年度	170	157	169	12	27	259	9	2

※本校では「難関国立大学」「準難関国公立大学」「難関私立大学」を以下のように設定しています。

難関国立大:北海道・東北・お茶の水女子・東京・東京外国語・東京工業・一橋・名古屋・京都・大阪・神戸・九州

準難関国公立大:筑波・千葉・東京都立・東京学芸・横浜国立・金沢・名古屋工業・広島

難関私立大:青山学院・学習院・国際基督教・慶應義塾・上智・中央・津田塾・東京理科・法政・明治・立教・早稲田・南山

同志社・立命館・関西・関西学院

※難関私立大学合格者数は延べ人数。1人が同一大学に受験方式の違いで複数回合格した場合も加算してあります。

※専門学校の中には予備校を含めていません。

令和6年度卒業生(現役生)の主な合格大学

弘前1、東北1、茨城1、筑波1、宇都宮3、埼玉6、千葉4、東京海洋2、東京学芸2、東京農工1、横浜国立8、
長岡造形1、富山1、金沢1、福井1、山梨4、信州1、岐阜1、静岡30、浜松医科6、愛知教育3、名古屋5、
名古屋工業1、三重2、大阪1、神戸4、奈良教育1、奈良女子1、和歌山2、鳥取1、岡山1、広島3、山口1、
九州1、九州歯科1、大分1、琉球1、千葉県立保健医療1、東京都立7、神奈川県立保健福祉1、横浜国立6、
都留文科4、山梨県立1、福井県立1、公立諏訪東京理科2、静岡県立14、静岡文化芸術15、愛知県立4、名古屋国立3、
大阪公立1、神戸市外国語1、兵庫県立1、下関市立1、青山学院7、学習院4、慶應義塾3、上智10、専修13、中央15、
津田塾6、東京薬科3、東京理科3、東洋27、法政14、明治16、明治学院18、立教12、早稲田1、神奈川18、
静岡理工科23、聖隷クリストファー36、常葉95、愛知73、中京33、中部16、名古屋外国語10、南山34、名城49、
京都産業8、京都女子10、京都薬科2、同志社18、同志社女子5、立命館88、龍谷17、関西6、近畿19、関西学院22

スクールカウンセラー相談室開設のお知らせ

令和7年度浜松市スクールカウンセリング活用事業に伴い、本年度も本校におきまして、スクールカウンセラーが定期的に来校し、下記のとおり相談室を開設することになりました。本年度で18年目の事業となります。過去の相談室利用状況は、下表のとおりです。

思春期は、多くの悩みを抱えやすく、こころのバランスを崩しやすい時期です。学校内の身近な場所で、専門家による相談が受けられるこの相談室をぜひ御活用ください。相談を希望される場合は、時間の調整がありますので申込みをお願いします。

< 相談室利用状況 >

(単位：人、延べ人数)

相談者	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
生 徒	5 0	4 1	5 7	5 5	6 9
保護者	3 5	2 2	3 3	3 4	2 9
合 計	8 5	6 3	9 0	8 9	9 8

- | | |
|---------|--|
| 1 対 象 | 生徒並びに保護者 |
| 2 日 時 | 毎週水曜日
午前9時30分から午後4時30分まで |
| 3 相談場所 | 本校 教育相談室 |
| 4 担 当 者 | 臨床心理士 乾 哲郎 先生 |
| 5 申込み先 | 浜松市立高等学校
養護教諭 鈴木 理枝
TEL 053-453-1105 (代) |